

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3071201366
法人名	株式会社フェニックス
事業所名	グループホームグレイス岩出
所在地	和歌山県岩出市森259-1 (電話) 0736-70-3444

評価機関名	NPO法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成19年8月19日	評価確定日	平成19年9月26日

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 27日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤	2人, 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建て	1階	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000~25,000(円)	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成19年7月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	7名		
要介護1		名	要介護2	4名		
要介護3	3	名	要介護4	2名		
要介護5		名	要支援2	名		
年齢	平均	78歳	最低	63歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田病院・井関歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

根来寺の近くに位置するホームは周囲を竹藪や水田に囲まれ自然環境に恵まれている。改装された建物は、グループホームの住居としては使いにくい点もあるが、それをソフト面でカバーしようと職員は熱心な姿勢で挑んでいる。日々のケアで理念が実践されており、職員一同は仕事にやりがいと喜びを持ち毎日入居者と接している様子が窺われるとともに入居者にも明るい表情が見て取れた。又、他ホームとの相互訪問や交流も行われ、入居者・職員にとってよい刺激となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価をスタッフ会議で報告・検討し、時計の位置を直すなど改善点はできる所から行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全体で自己評価を行っている。又、運営推進会議でも議題として取り上げられ、事業所内外での取り組みが始められている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	本年4月より2ヶ月毎に開かれ、内容も初回は事業所からの報告で終わったが、2回目は区長より公共施設利用の助言をもらい、地域住民と一緒にイベントを行う企画もある。地域との連携が進み始め、今後の活動への展望が開けている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームへの訪問の機会をできるだけ作り、面会時に家族と話し合うが、本音が聞けない。苦情箱もあまり活用されていない。よりよいホーム作りのために、「家族会」の結成が望まれる。運営推進会議にも期待している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のイベント・祭りには積極的に参加している。散歩時には少しずつ近所の方の声かけもある。今年の事業所の夏祭りに民生委員の方を招待したり、小学校への雑巾プレゼントを通して、地域との関わりや若者との交流を模索している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう、個人を尊重する理念で支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週月曜日、朝のミーティングで唱和確認し、職員の身に付いている。その人をよく見て、その人らしくいられる環境であるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のイベント・お祭り等には、入居者と共に積極的に参加している。毎月の押し花教室や外食の際、交流の機会もあるが、ホーム側からの働きかけが少ないように思われる。	○	地域で生活するには、自治会への参加が望ましい。又、行事参加だけでなく、グループホームの方から積極的に区長等に様々な提案をし、一緒に地域で支え合えるように期待している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営推進会議でも取り上げられており、出来ることから具体的な改善に結びつけられるように外部評価を活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者本人、家族、民生委員、岩出市包括支援センター職員、グループホーム職員が参加し、回を重ねる毎に話し合う内容も充実し、地域の方々との手応えが感じられてきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の困難事例の際、すぐに適切な助言・対応を得ることができた。その後も、市の職員と一緒に支援を続けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が支払いに来られたときや面会時を利用して、健康状態等を報告できる状況を作っている。又、毎月、担当者から家族宛に個別の”お便り”を発行し、生活の様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情受付箱を置いているが、意見はあまり得られない。面会時も、なかなか本音が聞けない。	○	家族会の結成が期待される。 広報紙掲載の為の同意も得られており広報紙作成も期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	採用時によく話し合い職員の交代を少なくする努力をしているが、やむを得ず交代になる場合は新しい職員が入るときに入居者にきちんと紹介し、スムーズに受け入れられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画はとくにないが、希望すれば勤務中でも受講できる体制である。 新人職員には職員心得を渡し業務を常時同行し、1ヶ月間、研修している。 他ホームとの相互研修もされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	散歩するコースに他のグループホームがあり、入居者と共に訪問することがある。行事の方法について教えてもらう等、交流の機会を得ている。 ホームの行事には相互訪問がなされ、入居者も楽しそうである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	帰宅願望がある人には慣れるまで家族に泊まってもらったり、不安定な人にはできる限り寄り添ったりと、さまざまな配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者毎に担当者を決め、できるだけ慣れ親しんだ人と一緒に過ごせるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴を断る入居者に対して無理に誘導することなく、入居者のペースに合わせて対処している。 買い物や散歩等、出かけた希望にも対応できている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開き、家族の意見も取り入れながら、本人に添った介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年2回介護計画の見直しがなされ、身体等の状態に変化が見られたときは、必要に応じてミーティングを行い、変更点を申し送りして伝えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、権利擁護支援、外出・外泊支援等、入居者の事情に沿った柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は富田病院、他2ヶ所あり、身体の状態に変化がみられれば、すぐに往診を受けられる体制をとっている。また、本人や家族からの希望があれば、かかりつけ医を受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族の希望を伺い話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりが尊重されていると感じられる対応に心がけ、集団の中で疎外されない配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、入浴、排せつ等、各個人の希望や生活リズムを大切にして、援助している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理やかたづけを入居者と職員が一緒に行っているが、週4回は食材配達そのままの既成メニューとなり入居者の好みや意欲を引き出しにくい部分がある。	○	食事は生活の中の大きな楽しみなので、毎日の献立のなかに入居者の好みをとりにいれて調理する工夫が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中の好きな時間に入れるように配慮している。浴槽が大きいので、大小のイスを用い入りやすい工夫をしている。	○	希望があれば夜間の対応も望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事、掃除、裁縫など入居者の得意なことを日常生活の中で役割として支援している。月1回の押し花教室や書道等、趣味の行事も開かれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩を行っている。季節ごとにドライブにでかけたり、月1回の外食デーがある。買い物への希望がある場合、車にてスーパーに職員と一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が交通量の多い道路に面し、共有空間が2階なので、常時鍵をかけている状態である。	○	玄関フロアでのレクリエーション時など、十分な見守り体制がとれるときは鍵を掛けないケアを実行できるように少しずつ取り組む事を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力による避難訓練と自主的な避難訓練を年1回ずつ行っているが、地域と一緒に訓練には至っていない。	○	災害時には住民の協力が不可欠となるので、地域の人々と連携を取りながら、災害対策に取り組んで行く事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は個別に把握されている。 日中及び寝る前は、十分な水分確保を行っている。自立されている方は居室にペットボトルを置くなど、入居者の方の状態・力量に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東からの朝日を洒落たスダレのブラインドで遮り、手作りの調度品が置かれた居間は居心地がよい。廊下にも入居者手製の短冊や色紙・花が飾られ、暖かみがある。収納が少ない建物内は整頓され、様々な工夫が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、ベッド、好みのポスター、ぬいぐるみ等が置かれ、入居者が家庭でいるように居心地よく過ごせる配慮をしている。		